

公表

## 事業所における自己評価結果

事業所名		BRIDGE5				公表日	2026年 3月 31日
	チェック項目	はい	いいえ	工夫している点	課題や改善すべき点		
環境・体制整備	1	利用定員が発達支援室等のスペースとの関係で適切であるか。	6	1	個別教室のため、1人につき一部屋使用しているため適切である。	引き続き現状のスペースを確保していく。	
	2	利用定員やこどもの状態等に対して、職員の配置数は適切であるか。	1	6	職員が1人休むと他の職員の負担が増える。人数に余裕がなく、無理をせざるを得ない。 ことば・からだの教室とも職員数が足りず、1名が休むと他事業所からのヘルプや利用者の調整等影響が出てくる 退職者が出て職員数の補充がされない上、他事業所からのヘルプも難しい。適切な人員が確保できない日があるのが現状。 専門職の人数配置の差は感じています。みんなでできる仕事に関しては、他の方にも協力してもらいながら取り組んでいます。	職員の配置については、休みが出た場合でも自事業所で解決できるような配置になるよう来年度は改善される予定。	
	3	生活空間は、こどもにわかりやすく構造化された環境になっているか。また、事業所の設備等は、障害の特性に応じ、バリアフリー化や情報伝達等、環境上の配慮が適切になされているか。	6	1	ビルや事業所の入り口の狭さやビルの老朽化は心配です。日々環境設定については職員間で検討を重ねながら進めている。	今後も環境の設定や構造化については施設の構造等を配慮した上で検討をしながら進めていく。	
	4	生活空間は、清潔で、心地よく過ごせる環境になっているか。また、こども達の活動に合わせた空間となっているか。	7	0	毎日清掃、換気を行っている。 1点だけ、ことばの教室の部屋のセッション中の電音音が気になる場合がある。 清潔を心掛けてはいるが、経年劣化等で行き届かない点も多々ある。	今後も清潔を心掛け、お子さまの特性によって使用する部屋を配慮する対応を続ける。	
	5	必要に応じて、こどもが個別の部屋や場所を使用することが認められる環境になっているか。	7	0	個別教室のため、1人につき一部屋使用している。	個別教室のため特に変更点等無し。	
業務改善	6	業務改善を進めるためのPDCAサイクル(目標設定と振り返り)に、広く職員が参画しているか。	7	0	目標シートを使用して、目標と振り返りを行うことができている 広く参画しているかどうかは判断できかねるが、定期的に目標設定・振り返りを行うことが求められており、時期も明確に決められている。	使用している目標シートで、業務改善をより進められる様工夫をしていく。	
	7	保護者向け評価表により、保護者等の意向等を把握する機会を設けており、その内容を業務改善につなげているか。	6	1	B5の個別教室が今年度スタートなので、評価がまだ受けられていない。 昨年度のB5の保護者の意見で、設備面で意向を反映できることには取り組んだ（トイレのスリッパの導入・換気）	今年度のアンケートで改善点が明らかになったら反映できるようにしていく。	
	8	職員の意見等を把握する機会を設けており、その内容を業務改善につなげているか。	6	1	月1回ミーティングを行い、業務改善についての話し合いも行っている。 1 on 1での聞き取りや、日常のやり取りで意見を吸い上げているが、まだ十分ではないと感じている。1 on 1をもう少し頻度を上げると良いか。 直属の上司に意見を伝えられる機会はしっかり設けられている。現場の意見が業務改善に反映されている実感はあまりない。	1 on 1での現場の意見が業務の改善に反映されるよう会社の方針とすり合わせていく。また、1 on 1の頻度についても検討をしていく。	
	9	第三者による外部評価を行い、評価結果を業務改善につなげているか。	3	4	今後必要だと思う。	地域の児童センターに必要に応じてs vをしてもらう等と連携を図っていく。	
	10	職員の資質の向上を図るために、研修を受講する機会や法人内等で研修を開催する機会が確保されているか。	6	1	市や県からの研修の情報を紹介したり、Slackで職員同士が研修を紹介したりという場を設けている。	今後も行政から提供される研修の情報提供や、受講できる体制づくりをしていく。	

適切な支援の提供	11	適切に支援プログラムが作成、公表されているか。	7	0	保護者同席の個別教室のため、セッション全てをご覧いただいている。	法人のHPIにて支援内容の公表を行うと共に実際の支援を同席を通してお知らせしていく。
	12	個々の子どもに対してアセスメントを適切に行い、子どもと保護者のニーズや課題を客観的に分析した上で、児童発達支援計画を作成しているか。	7	0	カンファレンスを行い、作成者以外の客観的視点を取り入れている。からだ・ことばそれぞれでカンファレンスをしっかりと行っており、その他分からない・迷っているなどあればミーティングの場を設けている。	今後も担当者以外も含めた職員で適切にカンファレンスを行い、適切な支援に繋げていく。
	13	児童発達支援計画を作成する際には、児童発達支援管理責任者だけでなく、子どもの支援に関わる職員が共通理解の下で、子どもの最善の利益を考慮した検討が行われているか。	7	0	計画作成のためのカンファレンスは担当職員の他に児発管や他職員も参加して行っている	今後も担当者以外も含めた職員で適切にカンファレンスを行い、適切な支援に繋げていく。
	14	児童発達支援計画が職員間に共有され、計画に沿った支援が行われているか。	7	0	担当固定性の場合、担当職員が休む場合はしっかりと申し送りをして、計画通りの課題の提供が行えるようにしている。また、個別ファイルの見開き部に最新の計画書を挟み、常にすぐに計画を確認出来るようにしている。	今後も引き続き、支援内容の申し送りや最新の計画内容を確認出来るよう取り組む。
	15	子どもの適応行動の状況を、標準化されたツールを用いたフォーマルなアセスメントや、日々の行動観察なども含むインフォーマルなアセスメントを使用する等により確認しているか。	7	0	決まっている評価のほかにも、児に応じた評価バッテリーを使用している。	今後も児に合わせた評価バッテリーを使用しながら、観察を通したインフォーマルなアセスメントも継続する。
	16	児童発達支援計画には、児童発達支援ガイドラインの「児童発達支援の提供すべき支援」の「本人支援」、「家族支援」、「移行支援」及び「地域支援・地域連携」のねらい及び支援内容も踏まえながら、子どもの支援に必要な項目が適切に設定され、その上で、具体的な支援内容が設定されているか。	7	0	事業所の方針に沿った内容をベースにしつつ、児に合わせた本人支援・移行支援・地域支援・連携、家庭に合わせた家族支援を設定している。	引き続き、児やご家庭に合わせた支援内容を設定していく。
	17	活動プログラムの立案をチームで行っているか。	5	2	個別教室という特性上、児へのプログラムの立案は基本担当者が行っている 支援内容は、支援計画書策定のカンファレンス時に職員間で相談して決めている。	今後もプログラムの立案は担当者がベースとしながら、カンファレンスを通してチームで行っていく。
	18	活動プログラムが固定化しないよう工夫しているか。	7	0	児の興味や好きなものを組み合わせながら組み立てている。	今後もお子さまが意欲的にプログラムに取り組んでいけるよう工夫をしていく。
	19	子どもの状況に応じて、個別活動と集団活動を適宜組み合わせる児童発達支援計画を作成し、支援が行われているか。	3	4	個別教室のため、集団活動は該当なし。	事業所の特性上、個別での活動であるが同法人内の集団事業所に通所しているお子さまについては連携を取りながら集団活動での情報を共有していく。
	20	支援開始前には職員間で必ず打合せを行い、その日行われる支援の内容や役割分担について確認し、チームで連携して支援を行っているか。	3	4	個別教室のため、具体的なプログラムはその日の担当職員が計画書（カンファレンスにて全職員で検討し作成したもの）に基づいて立案。迷った際は職員間で都度相談しながら決めている。	引き続き、職員間で報連相をしながら支援を提供していく。
	21	支援終了後には、職員間で必ず打合せを行い、その日行われた支援の振り返りを行い、気付いた点等を共有しているか。	5	2	個別教室のため、職員間で全ケースの振り返りを行うのは困難だが、各々記録には残している。必要なケースについては口頭での相談・共有も併せて行っている。	今後も日々の記録や対面での相談等を通して引継ぎや振り返りをしたものを共有していく。
	22	日々の支援に関して記録をとることを徹底し、支援の検証・改善につなげているか。	7	0	次の支援へ繋げるため、記録の取り方を話し合い共有している。	引き続き、より良い支援のために確実な記録と内容の検討をしていく。
	23	定期的にモニタリングを行い、児童発達支援計画の見直しの必要性を判断し、適切な見直しを行っているか。	4	3	半年に一度に関わらず、必要なタイミングで職員間で話し合いの場を設け、軌道修正を図っている。	引き続き、適切なタイミングで計画書の見直しをしていく。

関係機関や保護者との連携	24	障害児相談支援事業所のサービス担当者会議や関係機関との会議に、そのこどもの状況をよく理解した者が参画しているか。	5	2	サービス担当者会議・関係機関連携会議等は児発管や担当者が参画している。	今後もお子さまをよく知っている児発管や担当者が、会議に参加をしていく。
	25	地域の保健、医療（主治医や協力医療機関等）、障害福祉、保育、教育等の関係機関と連携して支援を行う体制を整えているか。	3	4	児発管や担当者が連携出来るよう対応をしている。	今後はより地域との連携の重要性が高まってくると思うので事業所としての連携の体制を整えていく。
	26	併行利用や移行に向けた支援を行うなど、インクルージョン推進の観点から支援を行っているか。また、その際、保育所や認定こども園、幼稚園、特別支援学校(幼稚部)等との間で、支援内容等の情報共有と相互理解を図っているか。	4	3	併行利用については同法人内での連携・情報共有に努めている。移行支援はまだケース的にならないのが現状である。	今後は同法人内の連携にとどまらず他法人、他機関との連携を積極的に行っていく。
	27	就学時の移行の際には、小学校や特別支援学校(小学部)との間で、支援内容等の情報共有と相互理解を図っているか。	2	5	就学の移行のケースがまだないのが現状である。	今後移行支援のケースがあれば、情報共有等連携をしていく体制を整えていく。
	28	(28～30は、センターのみ回答) 地域の他の児童発達支援センターや障害児通所支援事業所等と連携を図り、地域全体の質の向上に資する取組等を行っているか。				
	29	質の向上を図るため、積極的に専門家や専門機関等から助言を受けたり、職員を外部研修に参加させているか。				
	30	(自立支援)協議会こども部会や地域の子ども・子育て会議等へ積極的に参加しているか。				
	31	(31は、事業所のみ回答) 地域の児童発達支援センターとの連携を図り、必要に応じてスーパーバイズや助言等を受ける機会を設けているか。	1	6	スーパーバイズや助言といった連携は図れていないが情報の享受のみある。	助言等が必要になった場合の児童センターへの連絡やスーパーバイズに至るフローの確認をしていく。
	32	保育所や認定こども園、幼稚園等との交流や、地域の中で他のこどもと活動する機会があるか。	0	7	地域の中で活動はないが、地域の保育所への出張の研修や見学の要請があり、対応している。	個別教室としての地域との関わりのもち方、発信の仕方に工夫が必要と感じている。事業所の専門性を地域で活かしていきたい所。
	33	日頃からこどもの状況を保護者と伝え合い、こどもの発達の状況や課題について共通理解を持っているか。	7	0	セッション後のフィードバックで課題に対するねらい等を分かりやすくしている。 個別教室のため、毎回のセッションで行っている。	引き続き、セッションごとにしっかりと保護者さまへのフィードバックをしていく。
34	家族の対応力の向上を図る観点から、家族に対して家族支援プログラム(ペアレント・トレーニング等)や家族等の参加できる研修の機会や情報提供等を行っているか。	7	0	4半期に1回、職員の専門性を生かした内容の保護者の勉強会を開催している 保護者さま向けイベントを開催している。	今後も定期的に保護者さまへの支援として、勉強会を開催していく。資料としても整えていく。	
保護者への説明等	35	運営規程、支援プログラム、利用者負担等について丁寧な説明を行っているか。	7	0	契約時に資料を用いてしっかりと説明をしている。	引き続き、契約時に丁寧に説明をしていく。
	36	児童発達支援計画を作成する際には、こどもや保護者の意思の尊重、こどもの最善の利益の優先考慮の観点を踏まえて、こどもや家族の意向を確認する機会を設けているか。	7	0	アンケート用紙やそれをもとに保護者さまへ確認し、計画書にしっかりと盛り込めるようなフォーマットにしている。	今後も同様に保護者様とのやり取りを丁寧にしながら計画書作成をしていく。
	37	「児童発達支援計画」を示しながら支援内容の説明を行い、保護者から児童発達支援計画の同意を得ているか。	7	0	半年ごとの面談で、児発管のほかに担当職員も交えて説明を行っている。	引き続き、面談で丁寧に説明・同意へ進めるように対応していく。
	38	定期的に、家族等からの子育ての悩み等に対する相談に適切に応じ、面談や必要な助言と支援を行っているか。	7	0	半年ごとの面談のほかに、常時ご相談を受ける体制があることを手紙で掲示している。 毎回のセッションで、質問にお答えしたり、助言したりできている。必要があれば面談をご提案することもできている。	今後も必要に応じた相談援助をしていく。
	39	父母の会の活動を支援することや、保護者会等を開催する等により、保護者同士で交流する機会を設ける等の支援をしているか。また、きょうだい同士で交流する機会を設ける等の支援をしているか。	3	4	個別教室内でのきょうだいとの関りへの支援として行っている。	保護者会の開催等、ご家族の交流の機会を設けられていないのが課題。来年度は1回でも開催できるよう調整して行く。
40	こどもや保護者からの相談や申入れについて、対応の体制を整備するとともに、こどもや保護者に周知し、相談や申入れがあった場合に迅速かつ適切に対応しているか。	7	0	日々のセッションの中でお子さまや保護者さまのご相談を受けており、対応をしている。	どちらかというと、保護者さまからの相談が多く、お子さまからも相談や要望を受けられる事も大切だと考えている。	

	41	定期的に通信等を発行することや、HPやSNS等を活用することにより、活動概要や行事予定、連絡体制等の情報をこどもや保護者に対して発信しているか。	5	2	HUGの活動記録にて不定期ではあるが情報発信をしている。	定期的な通信の発信はできていないので、来年度は定期的に専門性を活かした情報発信を発信していく。また、連絡ツールとしてHUGを活かしていきたいので周知方法を検討していく。
	42	個人情報の取扱いに十分留意しているか。	7	0	共用部分への作品の掲示などでは、氏名の表記を見えない所になっている。	引き続き、個人情報の取扱いについては職員全体で徹底できるような対策を講じていく。
	43	障害のあるこどもや保護者との意思の疎通や情報伝達のための配慮をしているか。	6	1	現状対象となる児や保護者が在籍していない。	今後その様な方が利用されることがあれば職員間で協議して対応していく。
	44	事業所の行事に地域住民を招待する等、地域に開かれた事業運営を図っているか。	1	6	まずは地域への事業所の周知が必要と感じている。	療育施設としての周知や、事業所の内容などの紹介を兼ねて保護者イベントを地域へも広げていけるか等検討していく。
非常時等の対応	45	事故防止マニュアル、緊急時対応マニュアル、防犯マニュアル、感染症対応マニュアル等を策定し、職員や家族等に周知するとともに、発生を想定した訓練を実施しているか。	7	0	安全計画に基づいた訓練計画と実施をしている。	職員間での共有、訓練実施はできているが保護者さまへの周知は確実ではない。
	46	業務継続計画（BCP）を策定するとともに、非常災害の発生に備え、定期的に避難、救出その他必要な訓練を行っているか。	7	0	BCPの策定と計画に基づいた訓練を実施している。	今後も定期帯にBCPを見直しながら訓練実施をしていく。
	47	事前に、服薬や予防接種、てんかん発作等のこどもの状況を確認しているか。	7	0	こどもの状況については「安全管理シート」でファイリングしている。	引き続き、安全管理シートでの管理を徹底していく。
	48	食物アレルギーのあるこどもについて、医師の指示書に基づく対応がされているか。	6	1	おやつ等の食べ物の提供はしていない。アレルギーに関しては、「安全管理シート」で管理はしている。	食べ物の提供をしていないので、対応は特にしていない。
	49	安全計画を作成し、安全管理に必要な研修や訓練、その他必要な措置を講じる等、安全管理が十分された中で支援が行われているか。	7	0	安全計画を作成し、計画に基づいた訓練計画と実施をしている。	毎回全員一緒に行う事は難しいが、どの職員も参加できるよう日程等検討していく。
	50	こどもの安全確保に関して、家族等との連携が図られるよう、安全計画に基づく取組内容について、家族等へ周知しているか。	6	1	避難経路や避難の際の持ち出し物品などの掲示をしている。	年度の中で必要に応じて、掲示物への意識を持てるよう働きかける必要があると感じている。
	51	ヒヤリハットを事業所内で共有し、再発防止に向けた方策について検討をしているか。	7	0	事例を対面で話し合った後Slackで職員間で共有している。	今後も口頭とSlackを通じて情報を共有していくとともに対策を検討していく。
	52	虐待を防止するため、職員の研修機会を確保する等、適切な対応をしているか。	7	0	新入職員へは新人研修のプログラムに組み込んでおり、新人研修のプログラムには組み込まれている。	研修だけでなく日常での事例の検討なども今後していく事が大切だと感じている。
	53	どのような場合にやむを得ず身体拘束を行うかについて、組織的に決定し、こどもや保護者に事前に十分に説明し了解を得た上で、児童発達支援計画に記載しているか。	5	2	新入職員に対しては新人研修のプログラムに組み込んでおり、その他職員へは研修を行っている。	法人としての対応や記録、保護者への了承等が整備されていないので、今後は委員会での整備が必要である。